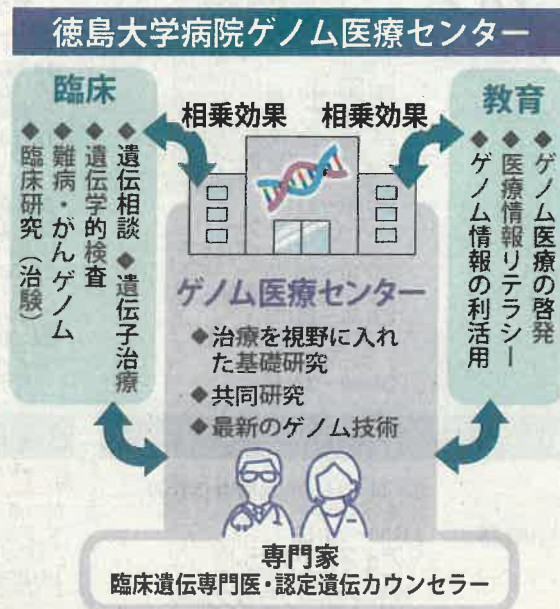


健

康

ゲノム医療の体制充実



診療科長

脳神経内科教授・

和泉唯信



徳大病院
元気を
支える
医療

私たちの体をつくる「設計図」であるゲノム（全遺伝情報）の解析技術は今、驚くべきスピードで進歩しています。近年、ヒトのゲノムが一人一人の診察や治療に役立てる「ゲノム医療」が本格的に始まっています。徳島大学病院は全国に先駆けてゲノム医療に取り組んでおり、その中

難病・周産期に注力

心を担うのが「ゲノム医療センター」です。

同センターは最新の技術を駆使するだけでなく、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラー、情報専門家がチームとなっており、院内の各診療科と手をとり合いながら患者さんを支えています。

実際の診察を行う「臨床」、新しい治療法を見つける「研究」、正しい知識を広める「教育」の三つを柱とし、それらが互いに協力し合うことで、より質の高い医療を目指しています。

ゲノム医療は難病やがんだけでなく、高血圧症などのありふれた病気など、ほぼ全ての疾患が対象になります。特に力を入れているのが「難病」の分野です。国が指定する難病には340以上の疾患がありますが、原因の一つに遺伝子の変化があります。解析技術の進歩で原因が次々と明らかになり、当院では長年、患者さんやご家族の不安に寄り添う遺伝カウンセリングを実施してきました。

最近では病気の仕組みそのものに働きかける新しい薬も開発されています。筋ジストロフィーや筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経や筋肉の難病では、既に保険が適用される治療薬も登場しています。

新しい命を見守る周産期のゲノム医療も当院の大きな特色です。受精卵の段階で遺伝子の変化を確認する「着床前診断」は、これまで幼少期の重い病気が対象でしたが、現在は成人になってから現れる病気にも対象が広がっています。

ゲノム医療の可能性は難病だけではなく、将来的にどんな病気になりやすいか、どの薬が効きやすくて副作用が出にくいといった自分の体質を事前に知り、最適な医療を選べるようになることが期待されています。ゲノム医療センターは皆さんの希望や不安に寄り添いながら、未来の医療を形にしていきたいです。